

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。</p> <p>・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、進路支援の充実に努めることが必要である。</p> <p>・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりをより推進することが必要である。</p> <p>・校務分掌の見直し、ジョブ・ローテーションを取り入れ、生徒指導及び進路指導における全体の指導力の向上が必要である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>(2) 部活動の充実</p> <p>(3) 家庭、地域社会、異校種の学校との連携強化</p> <p>(4) 教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	○生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感や興味をもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。	4	・今年度は86.6%であり、昨年の82.3%を上回ることができた。多くの先生は生徒に理解してもらうにはどのような授業をすればよいか日々考え試行錯誤しながら教材研究に励み、個々の生徒に対してわかる授業を心掛けている。 ・個々の生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善も少しずつ進んでいる。	・生徒の授業評価が高く毎年向上しているように感じる。これからも努力をお願いしたい。 ・学習への意欲が自己肯定感へとつながっている。このことが学校としての役割で、きめ細かな指導の継続をお願いします。	A
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4:3回授業参観し、授業研究に努めた。 3:2回授業参観し、授業研究に努めた。 2:1回授業参観し、授業研究に努めた。 1:授業参観することはなかった。	3	・本校、他校、小中学校などの公開授業に2回以上参加し教員相互の授業研究を進めることができた。その結果授業の改善に役立てることができた。 ・本校実施の公開授業では、中学・高校等より多くの参加者があり、アンケートでは丁寧な授業・生徒とのコミュニケーションがよい等の意見をいただいた。さらに授業の改善に役立てていきたいと思う。		
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、協力と相談を密にする。	4:校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応に不十分な点が多かった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。保護者からの相談も従前よりは行いやすくなったと思われる。 ・また、校外での各組織(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議している。	・個々の生徒に対応されているのがよくわかります。 ・定時制に通ってくる生徒の多くは意欲のある生徒であると考えている。意欲がない生徒に関しては家庭や職場と学校の連携を深めて対処していくとよいと思う。 ・これからも引き続き校外との連携に努めてほしい。	A
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が今年度は例年になく多種多様であるため、学校不応による意欲の低下や生徒間の問題を事前に察知する。	4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。全体の職員会議においても、定期的に情報交換を行い、支援や指導方法について模索してきた。 ・特に、高校で学習し卒業するという価値観に乏しい生徒や、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒への対応に苦慮している。		
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。	4	・ほぼ全員の卒業生に支援を行うことができた。進学希望者については、進路意識も高く取り組んだ。しかし、就職希望者は、生徒本人の能力・希望・家庭状況等で進路に結びつかなかった例もある。雇用状況が今年も良かったにもかかわらず、自分がどんな職業に就きたいのか、どのように人生を歩むのか分からない生徒が増えてきたようである。 ・総合的な学習の時間などを使った低学年からのキャリア教育の検討が必要であろう。	・個別に丁寧に対応されている。どのように目標を持たせるかが課題であると感じます。 ・社会人とのコミュニケーションの場を提供するなどしてもっと社会に興味関心を持ってよう支援をお願いしたい。 ・進路に希望が持てるようにキャリア教育を充実させて、将来の姿を考えてもらいたい。 ・生徒に目標を持たせる手立てを多く準備できれば効果が上がってくると思う。	B
		・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4:生徒の70%以上が受検し、合格率は60%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は40%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。	2	・25名が受検し、7名が合格した。受検率は64.1%(昨年度67.5%)で昨年度とほぼ同じであった。合格率は28.0%で昨年度の37.0%を大きく下回った。合格率が下がった原因として、検定・資格の種目選択におけるマッチングの問題が考えられる。また、受検する級の設定も不適当だったことも考えられる。特に漢字検定の選択者の合格率が低く、漢字検定については受検級も慎重に選ばせる必要があると考える。		
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良い習慣が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事において、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させる。始業式や定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・生徒会中心の行事については例年の典型がほぼ完成されている。生徒会の中では、例年通りの伝統を引き継ぎつつも、独自性を出せるよう検討している。 ・生徒数は40名足らずではあるが、集団に参加できない、意欲がないなど多種多様な生徒がいる。これまでに以上に個別の支援や配慮が必要である。全員が主体的に活動できよう様々な工夫が必要である。	・主体形成に向かって努力をされているのがよくわかる。 ・学習も大切だが、定時制の生徒には特に所属感や仲間意識を通して学校生活をより有意義なものとなるように支援してほしい。	A
業務改善	組織的な取組	・ジョブ・ローテーションを取り入れて教職員同士の連携強化を図る。	4:教員同士の連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3:教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2:教職員同士の連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1:教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・生徒指導課長と総務進路課長が代わったが、前課長2名が定時制に在籍しているので仕事の引き継ぎや問題点等の検討が行われて、組織として教育活動全般がスムーズに行われている。生徒の実態が変化する中でさらに教職員の連携強化が必要である。 ・大学進学、専門学校進学、就職、高校卒業資格取得と生徒の進路希望の多様性が増し、さらに支援を必要とする生徒も増加している。個別対応する中で進路指導全般において教職員の指導力の向上が必要である。	・生徒のために業務改善を目指しておられるのがわかる。 ・大人の環境整備は生徒にも良い影響を与えたいと思います。	A
	○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・書架や供覧文書の設置場所など、職員室の作業環境を見直し、ワーキングスペースを拡充する。	4:作業環境が整理整頓され、ワーキングスペースが拡充された。 3:作業環境が整理整頓されたが、ワーキングスペースの拡充には至らなかった。 2:作業環境は従来どおりで変わらなかった。 1:今年度分の増加で、作業環境がより劣悪になった。	3	・長期休業等を利用して廊下側の書庫の中の不要な文書・書籍等を処分して、使用頻度の高い壁側の書棚の内容物を移動することで職員室内の収納場所の確保ができた。 ・壁側の書庫の上や横にある長年使われていない物品の整理と窓側の書庫の中が飽和状態にあるので整理をする必要がある。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>①フォローアップ研修の研究授業をはじめ、互見授業や他校の公開授業への参加、本校で開催された山口県定通教科教育研究会(国語)等により授業研究の取組が活発に行われて、授業アンケートでも肯定的な評価の割合が増加した。</p> <p>②学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での生徒支援の協力体制が構築されて、保護者からの相談が行いやすくなったと考えられる。また外部機関と連携して生徒支援を行うこともできた。</p> <p>③9名の卒業生に対して、個別に支援を行うことができた。就職希望者も進学希望者は最後まで諦めずに進路実現に向けて努力をした。特に進学希望者については進路意識も高く取り組んだ。</p>
【課題】	<p>①高校で学習し卒業するという価値観の乏しい生徒や、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒に対して、集団の中で成長を促していくことは難しかった。</p> <p>②総合的な学習の時間などを利用したキャリア教育を進める中で、積極的に自身の進路意識を高めていくことができる生徒は少なかった。資格取得の取組(キャリアアップ)についても昨年度のような成果は得られなかった。</p> <p>③大学進学、専門学校進学、就職、高校卒業資格取得等、生徒の進路希望が多様化する中で教職員の指導力の向上が課題である。</p>

7 次年度への改善策	
<p>①授業参観や互見授業等による研修は一定の効果が得られている。さらに次期学習指導要領や大学入試改革を意識した研修会への参加、校内研修の取組を企画していく。</p> <p>②生徒指導及び進路指導では、多様な生徒に対して学校組織だけでなく、スクールカウンセラー、ハローワーク等の専門機関との連携をさらに深めて対応していく。</p> <p>③検定学習に関しては種目選択の際にマッチングの問題と受検する級の設定を個別に丁寧に確認をしていく。特に漢字検定に関しては慎重に選択をさせる。</p>	